

友愛ネット

津山市立津山東中学校
平成29年9月26日(火)
No. 12



『やり抜く力』

「先輩たちの悔しい思いを目の前で見えてきて、自分たちこそはという気持ちで、本当にがまん、がまんでここまでやってきて、そのがまんがやっこの結果に結びついて、本当に、非常にうれしいです。」

これは甲子園を制覇した花咲徳栄高校野球部主将が、優勝インタビューで語った思いです。晴れがましくも堂々とインタビューに答える姿とともに、『がまん』という言葉がとても印象的でした。

ペンシルベニア大学心理学教授 アンジェラ・ダックワース氏の著書『GRIT(やり抜く力)』によれば、「私たちが人生のマラソンで何を成し遂げるかは、『やり抜く力(GRIT)』に大きくかかっている、『やり抜く力(GRIT)』とは『長期的な目標に向けた「情熱」と「粘り強さ」がなすもの』であり、「才能」にこだわっているとこの単純な真実を見失ってしまうから。」と述べています。「才能だけでは結果は出せない。」「人生の長いマラソンでどこまで頑張れるかは、圧倒的に『努力』にかかっている。」とも言っています。

著者は、日本のことわざである『七転び八起き』にも触れながら、こう言っています。「『やり抜く力』は、『自分たちの努力次第で将来はよくなる』という信念に基づいている。「明日はきっといい日になる」と「明日はもっといい日に見せる」では大違いである。『やり抜く力』を持つ人々にとって“運”は無関係であり、何度でも立ち上がろうとすること、それがすべてだ。」

誰でも逆境や挫折を経験することはあるが、『才能』にこだわっていると「自分は何をやってもダメだ」と悲観的に考える。一方、『努力』を信念に抱くと、「効率のよいやり方ができなかった、どうにかできる」と楽観的に、問題として対処しようとする傾向があるとのこと。著者は、こんな研究も紹介しています。

「コーチたちが各選手に、自分のいちばん得意な種目で泳ぐように指示をした。そして泳ぎ終わった選手に、わざと実際よりも少し遅いタイムを告げた。その後、各選手はもう一度チャンスももらって泳いだ。すると、楽観主義者たちのタイムは少なくとも最初と同じレベルだったが、悲観主義者たちのタイムは大幅に遅くなってしまった。」

生徒の笑顔があり元気な学校

教職員の笑顔があり元気な学校

『やり抜く力』には“心の持ちよう”も大切な要素であると言えます。花咲徳栄高校にも次のようなことがあったようです。

チームは昨秋、屈辱を味わう。関東大会1回戦で慶應義塾(神奈川)に1-9でコールド負け。千丸剛主将は「攻守の全てで力不足」と痛感した。選手たちの目の色が変わった。岩井監督が冬場に取り入れたのが、「ハンマートレーニング」だ。約10キロのハンマーを振り上げ、手首の力で押し込むようにタイヤに打ち付ける。それを50回10セット。「腕が上がらなくなる」(千丸主将)まで繰り返した。西川愛也選手は「人生で一番苦しい冬だったけれど、(コールド負けの)悔しさがあったから乗り越えられた」と語る。

このことに関連して『GRIT』にはこんな記述があります。

「自分の『やり抜く力』を強化したいなら、『やり抜く力』の強い文化を見つけ、その一員となること。あなたがリーダーの立場にあり、組織のメンバーの『やり抜く力』を強化したいなら、『やり抜く力』の強い文化をつくりだすことだ。」ここでは、『やり抜く力』を持つ集団・組織も重要であることが示されています。

体育会では、3年生や生徒会等のリーダーシップのもと、みなさん一人ひとりの「本気」で「やり抜き」素晴らしい成果をおさめることができました。

この成果をもとに校内では、学習、生徒会活動、部活動等に励み、校外では、社会のルールやマナーを守り社会に貢献できるようになってもらいたいと思います。

今後も、色々な取組の中で、『やり抜く力』を身に付け、日々、切磋琢磨し、誇りに思える学級、学校をつくりあげていきましょう。

自転車カギかけコンテスト始まる



～自転車にカギをかける習慣を！～

自転車カギかけコンテスト(岡山県警主催)が今年より行われています。自転車の盗難防止を目的に岡山県の中学校が参加し行われています。第1回目(9月)の本校施錠率は32.6%(県下中学校の施錠率89.8%)でした。これから毎月、抜き打ちで警察の方が来校され施錠状況を確認されます。自転車おカギをかける習慣をつけましょう。(カギの紛失を防ぐためキーホルダーをつけて管理しましょう)